令和7年度

シ ラ バ ス

（ 講 義 ・ 実 習 ）

(2025 年 4 月～2026 年 3 月)

2学年

茨城歯科専門学校　歯科技工士科

歯科技工士科

入学者の受け入れ方針(アドミッションポリシー)

歯科技工士の専門職を目指そうとする、以下のような資質を備えた人を求めています。

1　歯科技工士になりたいという強い意志を持つ人

2　歯科技工学の習得に必要な基礎学力を有する人

3　向上心が高く、日々努力を重ねられる人

卒業認定・称号授与方針(ディプロマポリシー)

本校所定の単位を取得し、以下の能力を身につけた者を卒業認定し、専門士(医療専門課程)の称号を授与します。

1　歯科技工士になるための基礎的な知識と技術を身につけている。

2　チーム医療の一員として活躍できるコミュニケーション能力を身につけている。

3　医療人としての心構えと倫理観を身につけている。

目　次

２学年

(科学的思想の基盤　人間と生活)

情報リテラシー　・・2- 1

(歯科技工と歯科医療)

関係法規　・・2- 3

(歯・口腔の構造と機能)

歯の解剖学実習Ⅱ　・・・2- 5

歯周病学　・・・2- 7

(有床義歯技工学)

全部床義歯技工学実習Ⅱ　・・・2- 9

部分床義歯技工学実習Ⅱ　・・・2-12

(歯冠修復技工学)

歯冠修復技工学実習Ⅱ　・・・2-15

架工義歯技工学実習Ⅱ　・・・2-21

デジタル技工実習　・・・2-29

(矯正歯科技工学)

矯正歯科技工学　・・・2-31

矯正歯科技工学実習　・・・2-32

(小児歯科技工学)

小児歯科技工学　・・・2-36

小児歯科技工学実習　・・・2-38

(歯科技工学実習)

技工実習

模型製作　・・・・・2-42

インレー、ＦＣＫ製作(16T-14)・・2-43

部分床義歯(P-3)　・・・・・2-44

ﾌﾟﾛﾋﾞｼﾞｮﾅﾙﾚｽﾄﾚｰｼｮﾝ(ｸﾗｳﾝ・ﾌﾞﾘｯｼﾞ)、

臼歯部ブリッジ(CB-5)　・・・・2-46

インレー、クラウンの製作(16T-24)・2-48

硬質レジン前装冠・臼歯ブリッジ(16T-40)

・・・・・・2-50

部分床義歯の製作(P-4)　・・・・2-52

部分床(金属床)義歯の製作(16T-23)・2-54

全部床義歯の製作(16T-28)・・・・2-56

分割コアの製作(16T-15)　・・・・2-58

マウスガード、スプリントの製作・・2-60

授　業　科　目	情報リテラシー（講義） 必修　16/16 時間(前期)	担当教員	樋口　淑美
授業目標・教育方針と概要	コンピュータの利用法を理解し、必要なデータや情報を的確に有効活用するために、インターネットを利用した情報の収集、開示に関する基本的知識、技能及び態度を習得する。		
達　成　目　標	1．コンピュータを構成する基本的装置の名称を列挙できる。 2．ワープロソフト、表計算ソフトおよびプレゼンテーションソフトを使用できる。 3．ソフトウェアの使用上のルールとマナーについて説明できる。 4．ネットワークセキュリティと使用上のマナーについて説明できる。		
授　業　計　画	第1回　コンピュータの構成、基本的な操作、文字入力 第2回　ワード・エクセルの基本操作 第3回　PowerPoint の操作 1：基本知識・基本的なプレゼンテーションの作成 第4回　PowerPoint の操作 2：表・グラフの作成 第5回　PowerPoint の操作 3：図形・SmartArt グラフィックの作成 第6回　PowerPoint の操作 4：図・クリップアート・ワードアートの挿入 第7回　PowerPoint の操作 5：特殊効果の設定（アニメーション効果） 第8回　課題製作		
履修上の注意	欠席をしないこと。積極的に授業に臨むこと。		
成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	授業の課題と授業態度により総合的に評価する。		
水準に達しない学生に対する対応	再試験や課題の提出を課す。		
・関連する授業・演習・実験 ・カリキュラム全体の中での位置付け	・プレゼンテーションソフトはセミナー・講演等に多く利用され、基本的な知識と操作の習得は重要である。		

教　　科　　書	最新歯科技工教本　歯科技工管理学
参　　考　　書	よくわかる Micrsoft PowerPoint2019 基礎

授業科目	関係法規（講義） 必修　16/16 時間(前期)	担当教員	塚野　孝
授業目標・教育方針と概要	歯科技工士に求められる役割は何かをテーマに，法制度，衛生行政の概要，歯科技工士法をはじめとする関係法規を学習し，社会人として，また職業人としてその職責を正しく遂行するために必要な基礎的知識を習得する。		
達成目標	1. 法の定義，種類等を学び，法制度を理解する。 2. 国の仕組み，衛生行政の目的，組織等を理解する。 3. 適切な歯科技工を実践するために，歯科技工士法を理解する。 4. 医療・医療関係職種に関する法規を理解する。 5. 社会保障制度を理解する。		
授業計画	第１回　法の概念，国の仕組み，衛生行政の概要 歯科衛生行政，歯科技工士と衛生行政組織 第２回　歯科技工士法（法の成り立ち，総則，免許） 第３回　同法　（試験） 第４回　同法　（業務，歯科技工所） 第５回　同法　（雑則，罰則，附則） 第６回　医療法，歯科医師法，歯科衛生士法 第７回　医療関係資格法，薬事衛生法規，保健衛生法規 予防衛生法規，労働衛生法規 第８回　社会保障制度，社会保障関係法規，まとめ		
履修上の注意	1. 教科書をよく読むこと。 2. メモを取り，その場での理解に努めること。 3. わからないことは積極的に質問すること。		
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	修了試験により，達成目標の理解度，到達状況を評価する。		
水準に達しない学生に対する対応	再試験を実施する。		
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	各科目で学習したことを，歯科技工士として自信と責任をもって活用するための基礎となる知識，現状の捉え方等を身に付ける。		
教科書	最新歯科技工士教本「歯科技工管理学」 （全国歯科技工士教育協議会編集）		

参　考　書	「国民衛生の動向」等

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>歯の解剖学実習Ⅱ（実習）
必修　14/32 時間(前期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
(実務経験教員)
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「ワックス歯型彫刻」
歯・歯周組織の形態、構造および機能を理解する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・永久歯の形態を彫刻できる。
・永久歯の特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　上顎右側中切歯　　歯型彫刻
第 2 回　上顎右側犬歯　　歯型彫刻
第 3 回　上顎右側第一小臼歯　歯型彫刻
第 4 回　下顎右側第一小臼歯　歯型彫刻
第 5 回　下顎右側第二小臼歯　歯型彫刻
第 6 回　上顎右側第一大臼歯　歯型彫刻
第 7 回　下顎右側第一大臼歯　歯型彫刻</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題を再度修正して提出する。あるいは最初から彫刻する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">すべての歯科技工物製作の基礎である。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td colspan="3">最新歯科技工士教本『口腔・顎顔面解剖学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td colspan="3">歯の解剖学・歯科理工学実習書、歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>歯の解剖学実習Ⅱ（実習）
必修　18/32 時間(前期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「石膏歯型彫刻」
歯・歯周組織の形態、構造および機能を理解する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・永久歯の形態を彫刻できる。
・永久歯の特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　上顎左側中切歯　　歯型彫刻
第 2 回　上顎左側犬歯　　歯型彫刻
第 3 回　上顎左側第一小臼歯　歯型彫刻
第 4 回　下顎左側第一小臼歯　歯型彫刻
第 5 回　下顎左側第二小臼歯　歯型彫刻
第 6 回　上顎左側第一大臼歯　歯型彫刻
第 7 回　下顎左側第一大臼歯　歯型彫刻
第 8 回　上顎左側第二大臼歯　歯型彫刻
第 9 回　下顎左側第二大臼歯　歯型彫刻</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題を再度修正して提出する。あるいは最初から彫刻する。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">すべての歯科技工物製作の基礎である。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td colspan="3">最新歯科技工士教本『口腔・顎顔面解剖学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td colspan="3">歯の解剖学・歯科理工学実習書、歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻</td></tr>
</table>

授業科目	歯周病学(講義) 必修　16/16 時間(前期)	担当教員	加藤　毅 (実務経験職員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	歯周疾患（歯周病）は、う蝕とともに歯を失う大きな原因の一つである。 歯周疾患は補綴治療とも密接に関係しており、歯周疾患の基本知識は、歯科技工士にも欠かすことができない。 そのため歯周病学の理解を深める。		
達成目標	正常な歯周組織と歯周疾患の成り立ち、原因を理解する。 歯周治療の進め方、診査診断を理解する。 咬合回復処置および歯周補綴を理解する。		
授業計画	第１回　歯周病学の概論、正常な歯周組織の形態など 第２回　歯周疾患の成り立ち 第３回　歯周疾患の原因 第４回　歯周治療の進め方① 第５回　歯周治療の進め方② 第６回　ブラッシング実習 第７回　咬合回復処置、歯周補綴 第８回　メインテナンス、サポーティブセラピー、まとめ		
履修上の注意	なるべく授業中で理解すること。		
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	定期試験による結果で成績を評価する。		
水準に達しない学生に対する対応	再試験やレポートを課す。		
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	補綴物の支台歯は、歯周病が進行すれば動揺したり、抜歯に至る危険性がある。そのためにも歯周病学の知識は、歯科技工士として補綴制作物においても関連が深い教科である。		
教科書	歯科技工士のための歯周病学		

参　考　書	歯周病治療の知識　　編集／村井正大　野口俊英　（医歯薬出版） 新歯科衛生士教本　歯周治療学　（医歯薬出版）

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>全部床義歯技工学実習Ⅱ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修 24/30 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「全部床蠟義歯の製作①」
全部床義歯の技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・全部床義歯の製作順序を理解し、全部床蠟義歯を製作できる。
・全部床義歯の特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1回　模型作成
第 2回　蠟堤準備
第 3回　蠟堤準備
第 4回　咬合器装着
第 5回　前歯部人工歯排列
第 6回　前歯部人工歯排列
第 7回　前歯部人工歯排列
第 8回　臼歯部人工歯排列
第 9回　臼歯部人工歯排列
第 10 回　歯肉形成
第 11 回　歯肉形成
第 12 回　口蓋皺襞付与、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再製作。</td></tr>
</table>

・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯の解剖学 ・顎口腔機能学 ・歯科理工学 ・全部床義歯の製作方法を確実に覚え、製作技術の向上を図るための実践。
教　科　書	最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	有床義歯技工学実習書　全部床義歯編

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>全部床義歯技工学実習Ⅱ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修 6/30 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「全部床蠟義歯の製作②」
全部床義歯の技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・決められた時間の中で要件を満たした全部床蠟義歯を製作できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1回　人工歯排列
第 2回　人工歯排列
第 3回　歯肉形成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・全部床義歯の製作方法を確実に覚え、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
<tr><td>教 科 書</td><td colspan="3">最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参 考 書</td><td colspan="3">有床義歯技工学実習書　全部床義歯編</td></tr>
</table>

授業科目	部分床義歯技工学実習Ⅱ（実習） 必修 54/60 時間(前期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「金属床義歯のフレームワーク製作」 金属床義歯の技工操作を習得する。		
達成目標	・金属床義歯の製作順序を理解し、金属床義歯を製作できる。 ・金属床義歯の特徴を説明できる。		
授業計画	第 1回　実習講義 第 2回　サベイング 第 3回　設　計 第 4回　ブロックアウト 第 5回　リリーフ 第 6回　複印象採得 第 7回　耐火模型製作 第 8回　ワックスパターン形成 第 9回　ワックスパターン形成 第 10 回　ワックスパターン形成 第 11 回　ワックスパターン形成 第 12 回　ワックスパターン形成 第 13 回　ワックスパターン形成 第 14 回　スプルー線の植立 第 15 回　埋　没 第 16 回　鋳　造 第 17 回　掘り出し 第 18 回　粗研磨 第 19 回　粗研磨 第 20 回　粗研磨 第 21 回　電解研磨 第 22 回　中研磨 第 23 回　中研磨 第 24 回　中研磨 第 25 回　中研磨 第 26 回　仕上げ研磨 第 27 回　仕上げ研磨・完成		
履修上の注意	・毎時間遅刻や欠席のないこと。 ・実習資料をよく読み、実習に備えること。 ・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。		

<table>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr>
<tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr>
</table>
提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・金属床義歯の理解を深め、製作技術を身に付けるための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>実習書『金属床義歯の製作』</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>部分床義歯技工学実習Ⅱ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修 6/60 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「維持装置の製作」
部分床義歯の技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・部分床義歯の維持装置を製作できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　パラタルバーのワックスパターン形成
第 2 回　ワイヤークラスプの製作
第 3 回　鋳造クラスプのワックスパターン形成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・部分床義歯の維持装置の製作方法を確実に覚え、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td colspan="3">最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td colspan="3">有床義歯技工学実習書　部分床義歯編</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>歯冠修復技工学実習Ⅱ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修 10/100 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「模型製作」
作業模型の製作方法を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・実習の要件を満たした模型の製作ができる。
・作業模型の特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　模型製作デモ
第 2 回　模型製作
第 3 回　模型製作
第 4 回　模型製作
第 5 回　模型製作</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr>
<tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr>
</table>
提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正あるいは再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・歯科理工学
・作業模型を正確に製作することは、歯科技工の基本で重要である。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td colspan="3">最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td colspan="3">歯冠修復技工学実習書</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>歯冠修復技工学実習Ⅱ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修 14/100 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「プロビジョナルレストレーションの製作」
プロビジョナルレストレーションの技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・プロビジョナルレストレーションの製作順序を理解し、製作ができる。
・プロビジョナルレストレーションの特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　歯冠形態の回復
第 3 回　歯冠形態の回復
第 4 回　印象採得、常温重合レジンの築盛、圧接
第 5 回　形態修正
第 6 回　形態修正
第 7 回　研　磨、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr>
<tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr>
</table>
提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・プロビショナルレストレーションの理解を深め、製作技術を身に付けるための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td colspan="3">最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td colspan="3">歯冠修復技工学実習書</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>歯冠修復技工学実習Ⅱ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修 24/100 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「レジンジャケットクラウンの製作」
レジンジャケットクラウンの技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・レジンジャケットクラウンの製作順序を理解し、製作ができる。
・レジンジャケットクラウンの特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　歯冠形態の回復
第 3 回　ガイドコア採得
第 4 回　スペーサー付与
第 5 回　レジン築盛・重合
第 6 回　レジン築盛・重合
第 7 回　レジン築盛・重合
第 8 回　形態修正
第 9 回　形態修正
第 10 回　形態修正
第 11 回　研　磨
第 12 回　研　磨、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・レジンジャケットクラウンの理解を深め、製作技術を身に付けるための実践。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書

授 業 科 目	歯冠修復技工学実習Ⅱ（実習） 必修 52/100 時間(前期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「陶材焼付金属冠の製作」 陶材焼付金属冠の技工操作を習得する。		
達 成 目 標	・陶材焼付金属冠の製作順序を理解し、製作ができる。 ・陶材焼付金属冠の特徴を説明できる。		
授 業 計 画	第 1 回　実習講義 第 2 回　歯冠形態のワックスパターン形成 第 3 回　歯冠形態のワックスパターン形成 第 4 回　歯冠形態のワックスパターン形成 第 5 回　歯冠形態のワックスパターン形成 第 6 回　前装スペースの窓開け 第 7 回　スプルー線の植立、埋没 第 8 回　鋳　造 第 9 回　適合確認 第 10 回　メタルフレーム調整 第 11 回　メタルフレーム調整 第 12 回　加熱処理(ディギャッシング) 第 13 回　実習講義(陶材築盛) 第 14 回　オペーク陶材築盛・焼成 第 15 回　サービカル陶材築盛・焼成 第 16 回　デンティン陶材築盛 第 17 回　デンティン陶材築盛・焼成 第 18 回　デンティン形態修正 第 19 回　エナメル陶材築盛・焼成 第 20 回　トランス陶材築盛・焼成 第 21 回　不足部築盛・焼成 第 22 回　形態修正 第 23 回　形態修正 第 24 回　形態修正 第 25 回　つやだし焼成 第 26 回　金属部研磨、完　成		
履修上の注意	・毎時間遅刻や欠席のないこと。 ・実習資料をよく読み、実習に備えること。 ・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。		

<table>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr>
<tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr>
</table>
提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・陶材焼付金属冠の理解を深め、製作技術を身に付けるための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>実習書『陶材焼付鋳造冠の製作』</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>架工義歯技工学実習Ⅱ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修 8/114 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「模型製作」
作業模型の製作方法を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・実習の要件を満たした模型が製作できる。
・作業模型の特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　模型製作デモ
第 2 回　模型製作
第 3 回　模型製作
第 4 回　模型製作</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr>
<tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr>
</table>
提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・歯科理工学
・作業模型を正確に製作することは、歯科技工の基本で重要である。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>架工義歯技工学実習Ⅱ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修 36/114 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「臼歯ブリッジの製作」
臼歯ブリッジの技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・臼歯ブリッジの製作順序を理解し、製作ができる。
・臼歯ブリッジの特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　ワックスパターン形成
第 3 回　ワックスパターン形成
第 4 回　ワックスパターン形成
第 5 回　ワックスパターン形成
第 6 回　ワックスパターン形成
第 7 回　ワックスパターン形成
第 8 回　窓開け、連結
第 9 回　スプルー線の植立
第 10 回　埋　没
第 11 回　鋳　造
第 12 回　適合確認
第 13 回　コンタクト調整
第 14 回　形態修正
第 15 回　形態修正
第 16 回　レジン填入
第 17 回　形態修正
第 18 回　研　磨、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
</table>

水準に達しない学生に対する対応	課題の修正又は再製作。
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯の解剖学 ・顎口腔機能学 ・歯科理工学 ・臼歯部ブリッジの製作方法を確実に覚え、製作技術の向上を図るための実践。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書

授業科目	架工義歯技工学実習Ⅱ（実習） 必修 60/114 時間(前期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「前歯ブリッジの製作」 前歯部前装冠ブリッジの技工操作を習得する。		
達成目標	・前歯部前装冠ブリッジの製作順序を理解し、製作ができる。 ・前歯部前装冠ブリッジの特徴を説明できる。		
授業計画	第 1 回　実習講義 第 2 回　ワックスパターン形成 第 3 回　ワックスパターン形成 第 4 回　ワックスパターン形成 第 5 回　ワックスパターン形成 第 6 回　窓開け 第 7 回　窓開け 第 8 回　連　結 第 9 回　スプルー線の植立、埋　没 第 10 回　鋳　造 第 11 回　適合確認 第 12 回　フレーム調整 第 13 回　フレーム調整 第 14 回　フレーム固定、埋没(鑞付け準備) 第 15 回　鑞付け 第 16 回　研　磨 第 17 回　サンドブラスト処理 第 18 回　レジン築盛、重合 第 19 回　レジン築盛、重合 第 20 回　レジン築盛、重合 第 21 回　レジン築盛、重合 第 22 回　レジン築盛、重合 第 23 回　レジン築盛、重合 第 24 回　形態修正 第 25 回　形態修正 第 26 回　形態修正 第 27 回　形態修正 第 28 回　研　磨 第 29 回　研　磨 第 30 回　研　磨、完　成		

<table>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・前歯部前装冠ブリッジの理解を深め、製作技術を身に付けるための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>歯冠修復技工学実習書</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>架工義歯技工学実習Ⅱ（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修 10/114 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「臼歯ブリッジ(ワックスパターン形成)の製作」
臼歯ブリッジの技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・臼歯ブリッジの製作順序を理解し、製作ができる。
・臼歯ブリッジの特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　ワックスパターン形成
第 2 回　ワックスパターン形成
第 3 回　ワックスパターン形成
第 4 回　ワックスパターン形成
第 5 回　連　結、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr>
<tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr>
</table>
提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・臼歯部ブリッジの製作方法を確実に覚え、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書

授 業 科 目	デジタル技工実習（実習） 必修　30/30 時間(前期)	担当教員	専 任 教 員 倉持　貴 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	歯科医療においては新しい材料の開発やデジタル化が進み、迅速で、高品質高精度な補綴物を製作することが可能になってきました。実習では CAD/CAM システムの基礎的知識と各種材料の特性を理解すると伴に、その基本操作を習得する。		
達 成 目 標	・ CAD/CAM システムの基本操作（スキャニング・設計・加工）を行うことが出来る。 ・ 使用材料（ジルコニア等）の特性を説明できる。		
授 業 計 画	〔専任教員〕 第１回　実習講義(CAD/CAM システムの概要 支台歯形態、材料の特性について） 第２回　基本操作（スキャニング・設計・加工）の解説 （デモ） 第３回　全部金属冠の製作（上顎第一大臼歯） スキャニング・設計 第４回　スキャニング・設計・切削加工（ワックスディスク） 第５回　ワックスパターン埋没・鋳造 第６回　鋳造・研磨 第７回　研磨　完成　提出 第８回　ジルコニアクラウンの製作（下顎第一大臼歯） 材料の特性について 設　計・加　工の解説（デモ） 第９回　設　計、加　工 ※シンタリング処理 第 10 回　切削加工後の調整、バイト調整 第 11 回　形態修正、ステイニング 第 12 回　ステイニング 第 13 回　ステイニング 第 14 回　仕上げ、完成 第 15 回　設計練習		
履修上の注意	欠席をしないこと。 積極的態度で実習に臨むこと。		

成績評価の方法 達成評価の基準、およびその方法	実技試験（クラウンの設計)、提出課題（全部金属冠、ジルコニアクラウン)、受講態度
水準に達しない学生に対する対応	再試験
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	歯冠修復技工学、歯科技工実習 デジタル技工が一般的になってきている現在、従来の技工だけでなくデジタル技工を習得することは重要である。
教　科　書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	CAD/CAM デンタルテクノロジー　3 shape の補綴設計書

授業科目	矯正歯科技工学(講義) 必修　16/16 時間(前期)	担当教員	岡﨑　恵一郎 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	歯並びやかみ合わせの不正によって生じる障害を認識し、矯正治療の重要性を総合的に修得する。 それに必要な生物学的、物理学的（力学）な基礎知識を理解し、特に矯正装置の特徴を修得する。		
達成目標	1．顎顔面の不正な発育、局所的原因によって引き起こされる不正咬合を理解する。 2．歯牙移動のメカニズムを理解する。 3．矯正装置の構造と製作法を充分に理解する。		
授業計画	第1回　矯正治療とは 第2回　正常咬合 第3回　不正咬合 第4回　矯正治療の進め方 第5回　矯正歯科技工の手技 第6回　矯正装置 第7回　矯正装置 第8回　保　定		
履修上の注意	欠席は極力避け、授業中は内容の理解に努める。 指示のあった場合にはレポートの提出をする。		
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	定期試験による結果で成績評価をする。		
水準に達しない学生に対する対応	再試験やレポート提出を課す。		
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	歯科医療の中で各科の授業と密接な関係があるが、特に材料学、理工学と関係が深い。 また、矯正治療は新しい咬合を構築するので、歯科全体の知識の把握が必要である。		
教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」 全国歯科技工士教育協議会編集		
参考書	最新歯科技工士教本「顎口腔機能学」 全国歯科技工士教育協議会編集		

授 業 科 目	矯正歯科技工学実習（実習） 必修　38/60 時間(前期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「舌側弧線装置の製作」 舌側弧線装置の技工操作を習得する。		
達 成 目 標	・舌側弧線装置の製作順序を理解し、製作ができる。 ・舌側弧線装置の特徴を説明できる。		
授 業 計 画	第 1 回　実習講義 第 2 回　維持バンド製作 第 3 回　チューブ鑞着 第 4 回　チューブ鑞着 第 5 回　複印象採得 第 6 回　複模型製作 第 7 回　脚部屈曲 第 8 回　主線屈曲 第 9 回　主線屈曲 第 10 回　主線の固定と鑞付け 第 11 回　補助弾線鑞着 第 12 回　補助弾線鑞着 第 13 回　補助弾線屈曲 第 14 回　補助弾線屈曲 第 15 回　補助弾線調整 第 16 回　研　磨 第 17 回　研　磨 第 18 回　研　磨 第 19 回　研　磨、完　成		
履修上の注意	・毎時間遅刻や欠席のないこと。 ・実習資料をよく読み、実習に備えること。 ・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。		

<table>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr>
<tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr>
</table>
提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・舌側弧線装置の製作方法を覚え、製作技術を身に付けるための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『矯正歯科技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>矯正歯科技工学実習書</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>矯正歯科技工学実習（実習）
必修　22/60 時間(前期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「ホーレーの保定装置の製作」
ホーレーの保定装置の技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・ホーレーの保定装置の製作順序を理解し、製作ができる。
・ホーレーの保定装置の特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　設　計・唇側線屈曲
第 3 回　唇側線屈曲
第 4 回　唇側線屈曲
第 5 回　唇側線屈曲
第 6 回　アダムスのクラスプ屈曲
第 7 回　アダムスのクラスプ屈曲
第 8 回　アダムスのクラスプ屈曲
第 9 回　アダムスのクラスプ屈曲
第 10 回　ワックス床形成
第 11 回　ワックス床形成・完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・ホーレーの保定装置の製作方法を覚え、製作技術を身に付けるための実践。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『矯正歯科技工学』全国歯科技工士教育協議会編集 最新歯科技工士教本『小児歯科技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	矯正歯科技工学実習書

授業科目	小児歯科技工学(講義) 必修　16/16 時間(前期)	担当教員	塩野　康裕 (実務経験教員) 歯科医師
授業目標・教育方針と概要	小児は身体的、精神的、機能的、さらには社会的に成長発達の途上にあり、その口腔内も変化を続けている。これらの小児の特徴を理解し、歯科技工を行うに際して必要とされる知識を学び、技術習得する。		
達成目標	１．小児の発育過程（全身，顎・顔面，歯・歯列）について説明できる。 ２．正常な発育を阻害する因子（う蝕，不正咬合，習癖）について説明できる。 ３．う蝕，不正咬合，欠損，習癖を予防，治療するのに必要な知識を修得している。 ４．３の為の技工物の製作法を理解し，製作できる。		
授業計画	第１回　全体の授業内容（シラバス）の説明 小児歯科技工概説 第２回　歯，顎・顔面の成長発育 第３回　小児の歯冠修復 咬合誘導装置の種類 第４回　保隙装置 第５回　保隙装置 第６回　スペースリゲーナー 第７回　口腔習癖除去装置 第８回　咬合誘導装置に用いる維持装置 まとめ		
履修上の注意	解らないことは積極的に質問すること。		
成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法	定期試験の結果で成績評価を行う。		
水準に達しない学生に対する対応	定期試験の結果を元に，再試験やレポートを課す場合がある。		
・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	小児歯科技工学は歯の解剖学，歯冠修復技工学および矯正歯科技工学で学んだことも必要になるのでそれらの学科もしっかりと理解，習得することが大切である。		
教科書	最新歯科技工士教本「小児歯科技工学」全国歯科技工士教育協議会編集（医歯薬出版）		

参　考　書	

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>小児歯科技工学実習（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　14/34 時間(前期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「バンドループ保隙装置の製作」
バンドループ保隙装置の技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・バンドループ保隙装置の製作順序を理解し、製作ができる。
・バンドループ保隙装置の特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　維持バンド製作
第 3 回　複印象採得、複模型製作
第 4 回　ループ屈曲
第 5 回　ループ屈曲、固　定
第 6 回　鑞付け
第 7 回　研　磨、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再製作。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・バンドループ保隙装置の製作方法を覚え、製作技術を身に付けるための実践。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『小児歯科技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	小児歯科技工学実習書

<table>
<tr><td>授 業 科 目</td><td>小児歯科技工学実習（実習）
必修　20/34 時間(前期)</td><td>担当教員</td><td>専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「スペースリゲーナーの製作」
スペースリゲーナーの技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・スペースリゲーナーの製作順序を理解し、製作ができる。
・スペースリゲーナーの特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　実習講義
第 2 回　設　計、唇側線屈曲
第 3 回　唇側線屈曲
第 4 回　維持装置屈曲
第 5 回　維持装置屈曲
第 6 回　アダムスのスプリング屈曲
第 7 回　維持装置研磨
第 8 回　床形成
第 9 回　形態修正
第 10 回　研　磨、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・歯科理工学
・スペースリゲーナーの製作方法を覚え、製作技術を身に付けるための実践。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『小児歯科技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	小児歯科技工学実習書

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>技工実習（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　22/426 時間(後期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「模型製作」
作業模型の製作方法を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・実習の要件を満たした作業模型が製作できる。
・作業模型の特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　模型製作
第 2 回　模型製作
第 3 回　模型製作
第 4 回　模型製作
第 5 回　模型製作
第 6 回　模型製作
第 7 回　模型製作
第 8 回　模型製作
第 9 回　模型製作
第 10 回　模型製作
第 11 回　模型製作</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯科理工学　・有床義歯技工学　・歯冠修復技工学
・矯正歯科技工学　・小児歯科技工学
・作業模型を正確に製作することは、歯科技工の基本で重要である。</td></tr>
<tr><td>教 科 書</td><td colspan="3">最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参 考 書</td><td colspan="3">歯冠修復技工学実習書</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>技工実習（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　18/426 時間(後期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「インレー、FCK 製作」(16T-14)
インレー、クラウンの技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・インレー、クラウンの製作順序を理解し、製作ができる。
・インレー、クラウンの特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　ワックスパターン形成
第 2 回　ワックスパターン形成
第 3 回　埋　没
第 4 回　鋳　造
第 5 回　適合確認
第 6 回　研　磨
第 7 回　研　磨
第 8 回　研　磨
第 9 回　研　磨、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯の解剖学
・歯科理工学
・顎口腔機能学
・製作方法の理解を深め、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td colspan="3">最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td colspan="3">歯冠修復技工学実習書</td></tr>
</table>

授 業 科 目	技工実習（実習） 必修　68/426 時間(後期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「部分床義歯(P-3)」 部分床義歯の技工操作を習得する。		
達 成 目 標	・部分床義歯の製作順序を理解し、製作ができる。 ・部分床義歯の特徴を説明できる。		
授 業 計 画	第 1 回　サベイング 第 2 回　設　計 第 3 回　ブロックアウト、リリーフ 第 4 回　ブロックアウト、リリーフ 第 5 回　咬合器装着 第 6 回　クラスプパターンの製作(レジン築盛) 第 7 回　クラスプパターンの製作(レジン築盛) 第 8 回　クラスプパターンの製作(形態修正) 第 9 回　クラスプパターンの製作(形態修正) 第 10 回　クラスプパターンの製作(形態修正) 第 11 回　埋　没 第 12 回　鋳　造 第 13 回　適合確認 第 14 回　熱処理 第 15 回　線鉤屈曲 第 16 回　維持装置研磨 第 17 回　維持装置研磨 第 18 回　床形成 第 19 回　床形成 第 20 回　床形成 第 21 回　人工歯排列 第 22 回　人工歯排列 第 23 回　歯肉形成 第 24 回　歯肉形成 第 25 回　歯肉形成 第 26 回　埋　没 第 27 回　流　蠟 第 28 回　レジン填入 第 29 回　重　合 第 30 回　掘り出し 第 31 回　粗研磨		

<table>
<tr><td></td><td>第 32 回　粗研磨
第 33 回　中研磨
第 34 回　仕上げ研磨、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td><table><tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯の解剖学
・歯科理工学
・顎口腔機能学
・製作方法の理解を深め、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>有床義歯技工学実習書　部分床義歯編</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>技工実習（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　22/426 時間(後期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「プロビジョナルレストレーション(クラウン･ブリッジ)、臼歯部ブリッジ」(CB-5)
プロビジョナルレストレーション(クラウン･ブリッジ)の技工操作を習得する。
臼歯部ブリッジの技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">･ﾌﾟﾛﾋﾞｼﾞｮﾅﾙﾚｽﾄﾚｰｼｮﾝ(ｸﾗｳﾝ･ﾌﾞﾘｯｼﾞ)の製作順序を理解し、製作ができる。
･ﾌﾟﾛﾋﾞｼﾞｮﾅﾙﾚｽﾄﾚｰｼｮﾝ(ｸﾗｳﾝ･ﾌﾞﾘｯｼﾞ)の特徴を説明できる。
・臼歯部ブリッジの製作順序を理解し、製作ができる。
・臼歯部ブリッジの特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　臼歯部ブリッジ　ワックスパターン形成
第 2 回　臼歯部ブリッジ　ワックスパターン形成
第 3 回　臼歯部ブリッジ　ワックスパターン形成
第 4 回　臼歯部ブリッジ　連結
第 5 回　シェル形成
第 6 回　シェル形成
第 7 回　常温重合レジンの築盛
第 8 回　常温重合レジンの築盛
第 9 回　形態修正
第 10 回　形態修正
第 11 回　研　磨、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再提出。</td></tr>
</table>

・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け	・歯科理工学 ・歯の解剖学 ・顎口腔機能学 ・製作方法の理解を深め、製作技術の向上を図るための実践。
教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書

授 業 科 目	技工実習（実習） 必修　16/426 時間(後期)	担当教員	白澤　幸男 （実務経験教員） 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「インレー、クラウンの製作」(16T-24) インレー、クラウンの技工操作を習得する。		
達　成　目　標	・インレー、クラウンの製作順序を理解し、インレー、クラウンを製作できる。 ・インレー、クラウンの特徴を説明できる。		
授　業　計　画	【準備物】 ・完成物（見本） ・ワックス類 ・YP メタル 第 1 回　ワックスパターン形成 →最初に実習室で指示書も含め説明(PC 持参,ディスプレイ使用) 第 2 回　ワックスパターン形成 第 3 回　ワックスパターン形成 第 4 回　埋　没 →デモは基本的には埋没まで行う。 時間があれば鋳造デモ 学生の鋳造は第５回までに行っておく。 第 5 回　適合確認から行う。 第 6 回　粗研磨 第 7 回　中研磨 第 8 回　仕上げ研磨、完　成 【備考】 副模型について		
履修上の注意	・毎時間遅刻や欠席のないこと。 ・実習資料をよく読み、実習に備えること。 ・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。		

<table>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr>
<tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr>
</table>
提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯科理工学
・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・製作方法の理解を深め、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>歯冠修復技工学実習書</td></tr>
</table>

授 業 科 目	技工実習（実習） 必修　54/426 時間(前期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「硬質レジン前装冠・臼歯ブリッジ(16T-40)」 硬質レジン前装冠と臼歯ブリッジの技工操作を習得する。		
達 成 目 標	・硬質レジン前装冠の製作順序を理解し、製作ができる。 ・硬質レジン前装冠の特徴を説明できる。 ・臼歯ブリッジの製作順序を理解し、製作ができる。 ・臼歯ブリッジの特徴を説明できる。		
授 業 計 画	第 1 回　臼歯部ブリッジ　ワックスパターン形成 第 2 回　臼歯部ブリッジ　ワックスパターン形成 第 3 回　臼歯部ブリッジ　ワックスパターン形成 第 4 回　臼歯部ブリッジ　ワックスパターン形成 第 5 回　ポンティックの窓開け 第 6 回　連　結 第 7 回　埋　没 第 8 回　鋳　造 第 9 回　前装冠　ワックスパターン形成 第 10 回　前装冠　ワックスパターン形成 第 11 回　前装冠　ワックスパターン形成 第 12 回　前装スペースの窓開け 第 13 回　埋　没 第 14 回　鋳　造 第 15 回　適合確認 第 16 回　フレーム調整 第 17 回　フレーム調整 第 18 回　フレーム調整 第 19 回　レジン築盛、重合 第 20 回　レジン築盛、重合 第 21 回　レジン築盛、重合 第 22 回　レジン築盛、重合 第 23 回　レジン築盛、重合 第 24 回　レジン築盛、重合 第 25 回　形態修正 第 26 回　中研磨 第 27 回　仕上げ研磨・完　成		

<table>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯科理工学
・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・製作方法の理解を深め、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>歯冠修復技工学実習書</td></tr>
</table>

授業科目	技工実習（実習） 必修　72/426 時間(後期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「部分床義歯の製作」(P-4) 部分床義歯の技工操作を習得する。		
達成目標	・部分床義歯の製作順序を理解し、製作ができる。 ・部分床義歯の特徴を説明できる。		
授業計画	第 1 回　サベイング 第 2 回　設　計 第 3 回　ブロックアウト、リリーフ 第 4 回　ブロックアウト、リリーフ 第 5 回　補強線屈曲 第 6 回　補強線屈曲 第 7 回　補強線屈曲 第 8 回　鑞付け 第 9 回　リンガルバー屈曲 第 10 回　リンガルバー屈曲 第 11 回　リンガルバー屈曲 第 12 回　リンガルバー屈曲 第 13 回　複印象採得 第 14 回　複印象採得 第 15 回　耐火模型製作 第 16 回　耐火模型製作 第 17 回　鋳造鉤ワックスパターン形成 第 18 回　鋳造鉤ワックスパターン形成 第 19 回　埋　没 第 20 回　鋳　造 第 21 回　適合確認 第 22 回　形態修正 第 23 回　維持装置研磨 第 24 回　維持装置研磨 第 25 回　線鉤屈曲 第 26 回　線鉤屈曲 第 27 回　線鉤屈曲 第 28 回　線鉤屈曲 第 29 回　咬合器装着 第 30 回　床形成 第 31 回　床形成		

<table>
<tr><td></td><td>第 32 回　人工歯排列
第 33 回　人工歯排列
第 34 回　人工歯排列
第 35 回　歯肉形成
第 36 回　歯肉形成、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td><table><tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯科理工学
・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・製作方法の理解を深め、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>有床義歯技工学実習書　部分床義歯編</td></tr>
</table>

授 業 科 目	技工実習（実習） 必修　74/426 時間(後期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「部分床(金属床)義歯の製作」(16T-23) 部　分床義歯(金属床)の技工操作を習得する。		
達 成 目 標	・部分床義歯(金属床)の製作順序を理解し、製作ができる。 ・部分床義歯(金属床)の特徴を説明できる。		
授 業 計 画	第 1 回　サベイング 第 2 回　設　計 第 3 回　ブロックアウト 第 4 回　リリーフ 第 5 回　複印象採得 第 6 回　複印象採得 第 7 回　耐火模型製作 第 8 回　ワックスパターン形成 第 9 回　ワックスパターン形成 第 10 回　ワックスパターン形成 第 11 回　ワックスパターン形成 第 12 回　ワックスパターン形成 第 13 回　スプルー線の植立 第 14 回　スプルー線の植立 第 15 回　埋　没 第 16 回　鋳　造 第 17 回　鋳　造 第 18 回　掘り出し 第 19 回　適合確認 第 20 回　粗研磨 第 21 回　粗研磨 第 22 回　中研磨 第 23 回　仕上げ研磨 第 24 回　咬合器装着 第 25 回　人工歯排列 第 26 回　人工歯排列 第 27 回　人工歯排列 第 28 回　人工歯排列 第 29 回　歯肉形成 第 30 回　歯肉形成 第 31 回　埋　没		

<table>
<tr><td></td><td>第 32 回　流　蠟
第 33 回　レジン填入、重　合
第 34 回　掘り出し
第 35 回　粗研磨
第 36 回　中研磨
第 37 回　仕上げ研磨、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td>・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td><table><tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯科理工学
・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・製作方法の理解を深め、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>実習書『金属床義歯の製作』</td></tr>
</table>

授 業 科 目	技工実習（実習） 必修　50/426 時間(後期)	担当教員	専任教員 (実務経験教員) 歯科技工士
授業目標・教育方針と概要	「全部床義歯の製作」(16T-28) 全部床義歯の技工操作を習得する。		
達 成 目 標	・全部床義歯の製作順序を理解し、製作ができる。 ・全部床義歯の特徴を説明できる。		
授 業 計 画	第 1 回　リリーフ 第 2 回　ブロックアウト 第 3 回　咬合床製作(基礎床製作) 第 4 回　咬合床製作(基礎床製作) 第 5 回　咬合床製作(咬合堤製作) 第 6 回　咬合床製作(咬合堤製作) 第 7 回　咬合床製作(咬合堤製作) 第 8 回　咬合床製作(咬合堤製作) 第 9 回　咬合床製作(咬合堤製作) 第 10 回　咬合床製作(咬合堤製作) 第 11 回　咬合床製作(咬合堤製作) 第 12 回　咬合採得 第 13 回　咬合採得 第 14 回　咬合器装着 第 15 回　咬合器装着 第 16 回　前歯部人工歯排列 第 17 回　前歯部人工歯排列 第 18 回　臼歯部人工歯排列 第 19 回　臼歯部人工歯排列 第 20 回　臼歯部人工歯排列 第 21 回　歯肉形成 第 22 回　歯肉形成 第 23 回　歯肉形成 第 24 回　歯肉形成 第 25 回　仕上げ・完　成		
履修上の注意	・毎時間遅刻や欠席のないこと。 ・実習資料をよく読み、実習に備えること。 ・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。		

<table>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td>
<table>
<tr><th>評　定</th><th>評価基準</th><th>合否の別</th></tr>
<tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr>
<tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr>
</table>
提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。
</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td>課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td>・歯科理工学
・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・製作方法の理解を深め、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
<tr><td>教　科　書</td><td>最新歯科技工士教本『有床義歯技工学』全国歯科技工士教育協議会編集</td></tr>
<tr><td>参　考　書</td><td>有床義歯技工学自習書　全部床義歯編</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>技工実習（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">白澤　幸男
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　16/426 時間(後期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「分割コアの製作」(16T-15)
分割コアの技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・分割コアの製作順序を理解し、製作ができる。
・分割コアの特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　一次コア(分割コア本体)ワックスパターン形成
第 2 回　埋　没
第 3 回　鋳　造
第 4 回　一次コア調整
第 5 回　二次コア(ポスト部)ワックスパターン形成
第 6 回　埋　没
第 7 回　鋳　造
第 8 回　二次コア調整、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯科理工学
・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・製作方法の理解を深め、製作技術の向上を図るための実践。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『歯冠修復技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	歯冠修復技工学実習書

<table>
<tr><td rowspan="2">授 業 科 目</td><td>技工実習（実習）</td><td rowspan="2">担当教員</td><td rowspan="2">専任教員
（実務経験教員）
歯科技工士</td></tr>
<tr><td>必修　14/426 時間(後期)</td></tr>
<tr><td>授業目標・教育方針と概要</td><td colspan="3">「マウスガード、スプリントの製作」
マウスガード、スプリントの技工操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>達 成 目 標</td><td colspan="3">・スポーツマウスガード、スプリントの製作順序を理解し、製作ができる。
・スポーツマウスガード、スプリントの特徴を説明できる。</td></tr>
<tr><td>授 業 計 画</td><td colspan="3">第 1 回　印象採得(スタモ製作)
第 2 回　模型製作(スタモ製作)
第 3 回　マウスガード成形
第 4 回　マウスガード調整
第 5 回　ハードシート形成
第 6 回　ハードシート調整
第 7 回　仕上げ、完　成</td></tr>
<tr><td>履修上の注意</td><td colspan="3">・毎時間遅刻や欠席のないこと。
・実習資料をよく読み、実習に備えること。
・デモをよく観察し、メモを取り集中して実習に取組むこと。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法
達成評価の基準、およびその方法</td><td colspan="3"><table><tr><td>評　定</td><td>評価基準</td><td>合否の別</td></tr><tr><td>優</td><td>85～100 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>良</td><td>70～ 84 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>可</td><td>60～ 69 点</td><td>合　格</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td><td>不合格</td></tr></table>提出された製作物だけでなく、実習中の態度も考慮して評価する。</td></tr>
<tr><td>水準に達しない学生に対する対応</td><td colspan="3">課題の修正又は再提出。</td></tr>
<tr><td>・関連する授業・演習・実験
・カリキュラム全体の中での位置付け</td><td colspan="3">・歯科理工学
・歯の解剖学
・顎口腔機能学
・マウスガードの製作方法を覚え、製作技術を身に付けるための実践。</td></tr>
</table>

教　科　書	最新歯科技工士教本『矯正歯科技工学』全国歯科技工士教育協議会編集
参　考　書	オーラルアプライアンス製作マニュアル